

わたしたちにも できることがある  
—知ることからはじまる国際協力—

## 国際理解教育サポートプログラム

1979 年から 45 年以上にわたって支援活動を行ってきた国際 NGO、AAR Japan [難民を助ける会] が、豊富な経験を活かし、魅力的な国際理解教育の企画をご提案します。



## AAR Japan とは…

1979 年に日本で生まれた国際 NGO で、政治・思想・宗教に偏らずに活動することを基本理念としています。困難な状況下にある人々の中でも、特に弱い立場にある方々へ、長期的な視点をもって支援していくことを重視して活動しています。  
これまでに 65 以上の国と地域で支援活動を実施してきました。



AAR の活動国 (2025 年 10 月現在)

世界では紛争や武装勢力による暴力が後を絶ちません。世界の難民・国内避難民は近年、増加の一途をたどっており、1 億 2,320 万人に上ります (2024 年末時点)。これは世界人口の約 1.5% にあたり、日本の人口とほぼ同じです。難民・避難民全体の約 40% は 18 歳未満の子どもで、親を失った子どもたちも少なくありません。

「自分が難民になるなんて、思ってもみなかった。」南スーダン難民の女性はそう語りました。  
「ウクライナで今起きていることを忘れないでほしい。」と語るウクライナ難民の女性。  
私たちと同じ平和な日常を送っていた人々の生活が、どのように断ち切られ難民となっているのか「ウクライナにいるのがもし、私だったら」「私の家族だったら」「私の友達だったら」・・・。世界中で支援を必要としている人々の現状を、日本の子どもたちが「自分ごと」として考えられる視点と想像力を、私たちの支援活動の現場の声を通して養っていただければと考えています。

企画の具体的な内容は学校と AAR が相談しながら作り上げていきます。  
まずはお気軽にご相談ください。

### ● 活用の機会

AAR の国際理解教育サポートプログラムは以下のような活動にご利用いただけます。

- ・総合的な学習の時間
- ・社会科の授業の発展学習として  
一例として、以下の内容に関連付けてご活用いただけます。
  - 小学校：国際交流、国際協力、平和な国際社会の実現
  - 中学校：(地理) 世界の様々な地域、(公民) 国際社会に生きる私たち
  - 高校：総合的な探究の時間
  - 全学年：SDGs と解決したい社会問題を結びつけるアクションプラン（行動計画）の作成
- ・文化祭・学園祭、課外学習、研修旅行、修学旅行（班別行動）など

- プログラムのご案内

## 1. AAR スタッフの講演

世界 18 の国と地域で活動するスタッフがそれぞれの活動についてお話しします

AAR スタッフが国際協力に関する幅広いテーマを、お話や映像などで分かりやすく説明します。テーマ・内容・構成・講演・時間などはご希望に合わせて調整いたします。

※スタッフが学校に伺うこと、皆さんに当会事務所にお越しいただくことも可能です。

※所要時間は 30 分～90 分程度（応相談）

※当会事務所で実施する場合、スペースの都合上、参加者数は 40 名までとさせていただきます。



オンラインでの実施にも対応いたします。ただし、Zoom 等のオンライン会議サービスは、学校側でのご準備をお願いいたします。（学校がホストとなり、講師を招待する形式です）  
詳細は担当までお尋ねください。

対象： 小学生から高校生

所要時間： 30 分～90 分（応相談）

テーマ： 緊急支援、難民支援、地雷・不発弾対策、障がい者支援、感染症対策、東日本大震災緊急・復興支援、国際協力と NGO、世界の子どもたち、女性と国際協力、SDGs、社会貢献としての「寄付の教室」・・・など、様々なアクティビティを組みこむことも可能です。

過去の講演テーマ（一例）：

小学校： 「いろいろな国と、いろいろな人々、そして私たち」

中学校： 「いま知ってほしい、地雷のこと・クラスター爆弾のこと」

高校： 「難民支援のさまざまなアプローチ」

## 2. ワークショップ

### 世界の問題を身近に感じられるようになります

小学生向けから高校生向けまで、さまざまなテーマでワークショップを行います。講演・出前授業との組み合わせも可能です。

#### A 「私が難民になったら」

(対象: 小学生~高校生)

「自分が難民になったらどうしよう? どういうことに困るんだろう?」紛争や災害のため故郷を追われた難民の方々が抱える困難を、避難生活を追体験しながら理解します。



#### B 「トモダチが難民だったら」(対象: 小学生~高校生)

クラスにやってきた難民かもしれないトモダチは、何に困っているだろう? どうやつたらいいしょに楽しく学校で過ごせるのだろう? 日本はかつて、1万人以上のインドシナ難民を受け入れました。グローバル化がますます進む現代、多文化共生は日本の新たな課題になっています。難民などの国際問題を子どもたちが身近に感じられるワークショップです。

難しい日本語がわからない外国人や小さい子ども、お年寄りに、大事なことをすばやく伝えることができる「やさしい日本語」の説明も、ご希望があれば行います。

※AとBを組み合わせて行うことも可能です。

#### C 地雷探しゲーム (対象: 小学生)

日本では馴染みのない地雷・不発弾の問題。AAR オリジナルの地雷探しゲームを通じて、「自分の家の近くにもし地雷があったら?」と、地雷・不発弾の問題を自分のこととして考えてみます。



### 3. アクティビティを組み合わせて

学校での事前・事後学習と組み合わせれば、さらに実践的な学習に

プログラム組み合わせ例（テーマ：難民問題）

① 事前学習

↓ 本やホームページなどで、世界の難民問題や、国連やNGOの活動、AARの活動について調べ、質問をまとめます。

② AARスタッフの講演・出前授業・ワークショップ（45分）

↓ トルコでのシリア難民支援事業、ケニアでの南スーダン難民支援事業に携わるAARスタッフが、NGOの支援活動について話をする。支援現場の映像、難民のインタビュー映像を観たりしながら、理解を深める。または、テーマに合わせたワークショップで意見を交わし、自分の考えを述べ、チームごとの意見をまとめます。

質疑応答（10分）

③ 事後学習

↓ 出前授業の内容・感想を書いたり、「自分たちにできること」をまとめて発表しあう。

④ 協力活動

クラス・学年・学校単位で、募金活動、バザーなどを企画し、実行する。

### 4. 児童・生徒さんの皆さんの質問に答えます

教科書やインターネットだけでは分からないことにもお答えします。

事前・事後授業や、探究活動、普段の授業の中で生徒の皆さんがあわせ学習をする際に、

- ・電話やメールなどでのお問い合わせ
- ・インタビュー取材・・・などを通じ、AARスタッフが丁寧にお答えします。

※実施に当たっては、必ず担当の先生より事前にご相談ください。

## ● 依頼から実施までの流れ

### ① Web サイトからお申込み

プログラム実施の1カ月前までに、当会 Web サイトの国際理解教育サポートプログラムお申込みフォームから必要事項をご入力ください  
※プログラム内容に関するご相談はいつでもお電話や E-mail で承ります。



お申込みフォーム

### ② 詳細のご相談

AAR よりご担当の先生にご連絡します。プログラムのテーマや構成、必要な準備、費用等について、ご相談しながら詳細を決定します。

### ③ 当日

各種プログラムを実施します。

## ● 費用について

講演・ワークショップにつきましては、実施一件につき、人数に応じて以下を目安にご寄付または謝金をお願いいたします。

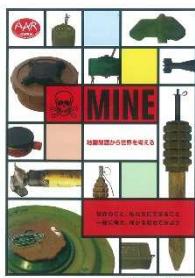
6人まで：7,000円～、7人から20人まで：10,000円～、21人以上：15,000円～

---

※AAR は皆様からのご寄付により、支援活動を続けることができます。ご理解くださいますよう、お願いいたします。また、実施にかかる交通費・宿泊費、教材・資料の送料などは、実費のご負担をお願いします。

## 各種パンフレットを無償でご提供します

※数に限りがありますので、ご希望の部数が多い場合は調整させていただきます。



■ 「MINE：地雷問題から世界を考える」  
地雷・不発弾、クラスター爆弾とは？何が問題なのか？  
様々なデータや、地雷対策の取り組みを分かりやすく解説しています。中学生以上向け。A5・14 頁



■ 「障がいのある人もない人も共に生きる地球社会へ」  
途上国での障がい者を取り巻く現状を解説するとともに、AAR の活動を例に、さまざまな障がい者支援のあり方や最近の潮流を紹介しています。高校生以上向け。A5・14 頁



■ 「STOP KILLER ROBOTS  
この世界に人を殺すロボットはない！」  
人による命令や判断なしでロボットが自動で判断して標的を選択し、人を殺す・・・キラーロボットの開発が進みつつあります。このような兵器の問題点を分かりやすく解説しています。21cm×21cm・10 頁

# 学校でできる国際協力

以下のような生徒のみなさんの自主的な活動も、AAR はサポートしています

## 国際協力のテーマについて調べ、発表する

関心のある国や分野についてより深く知る、そして知ったことをひとに伝えるといったことも、大切な国際協力です。文化祭などで発表することで、さらに理解が深まります。  
パネル写真や、写真データなどを貸し出しきれます。ご相談ください。

## チャリティ・バザーを行う

AAR で販売しているチャリティグッズや、家で眠っているもの、生徒たちの手作り商品などを集めてバザーを行い、売り上げを寄付します。

⇒ミニタオルやキーホルダーなど、AAR のチャリティグッズの  
委託販売を承ります。品物や販売方法については別途ご相談ください。



## 募金活動を行う

文化祭・学園祭で、街頭で、募金活動をしてみませんか？

- AAR では、募金の使い道（例：ウクライナ難民支援、ミャンマーの障がい児支援、能登半島地震被災者支援など）を指定していただくことができます。
- ご協力いただいた学校には、募金の使い道をご報告させていただきます。また、ホームページ上や AAR の会報にて、広く会員・支援者の皆さんにご紹介させていただいております。

## 身近なもので国際協力

AAR では、未使用切手、書き損じハガキ、未使用テレホンカード、商品券、古本などの寄付を受け付けています。未使用切手はそのままで、書き損じハガキは郵便局で新しいハガキや切手などに交換し、会報の送料や通信費として活用しています。お送り先などの詳細はお問い合わせください。



## マイレージのご寄付



修学旅行などで貯まったマイレージを国際協力のために生かしてみませんか？デルタ航空のマイレージプログラム「スカイウィッシュ・チャリティ・プログラム」でためたマイレージで AAR の活動を支援することができます。お手続きの詳細は、お問い合わせください。

## ■AAR Japan [難民を助ける会] 東京事務所

JR 山手線/東急目黒線/東京メトロ南北線/都営三田線「目黒」駅東口から徒歩 2 分



## ■お申し込み・お問い合わせは

特定非営利活動法人 難民を助ける会 [AAR Japan]  
国際理解教育担当 穂積、大塚、石原

Tel : 03-5423-4511 (月～土 10:00～18:00)

Fax : 03-5423-4450

E-mail : [rikai@aarjapan.gr.jp](mailto:rikai@aarjapan.gr.jp)

〒141-0021 東京都品川区上大崎 2-12-2 ミズホビル 7F